


2015年6月4日

こそだて家族研究所 

調査レポート VOL.6「現代パパの子育て事情(前篇)」編

今どきのパパは、8割以上が子育てに積極的。**仕事と子育ての両立が必要だと思うパパも8割。**

- 子育て熱心パパの約7割は「仕事を通して自分の能力や可能性を高めたい」と考えている。
- 仕事と子育ての両立ができると思うパパは半数以下の45.4%。
- 仕事と子育ての両立のために必要なのは「パパの意識改革」58.0%、「職場の理解」53.1%。

2012年10月に設立された「博報堂こそだて家族研究所」は、子どもを持つ家族の消費やライフスタイルについて研究していますが、このたび、「現代パパの子育て事情(前篇)」レポートを作成いたしました。今回のレポートでは2015年3月7日～3月8日に実施した調査をまとめたもので、長子年齢12歳までの子供がいるパパ1,079人に、子育てに対する意識や、その実態について聞いたものです。

その結果、子育てに熱心なパパの大半は仕事への能力開発にも積極的であることや、多くのパパは仕事と子育ての両立を望んでいることなど、リアルな子育てパパの実態が明らかになりました。

今後もこそだて家族研究所では、様々な視点でこそだて家族の実態について研究・発表してまいります。

- ◆ 調査手法：インターネット調査
- ◆ 対象者：20～40代 0～12歳の子どもをもつ既婚男性
n=1079名（長子年齢で割付 ウェイトバック集計にて分析）
- ◆ 調査エリア：全国
- ◆ 調査時期：2015年3月7日～3月8日

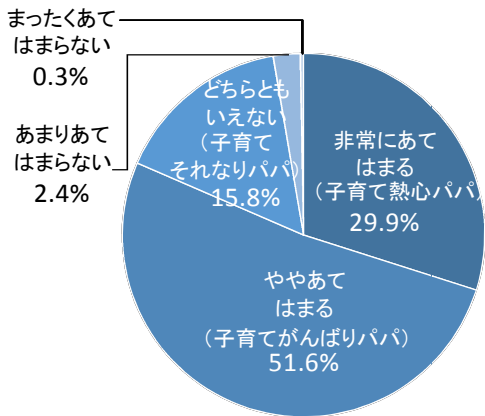
- 子育てに積極的なパパは8割以上。子育て熱心なパパは、仕事への能力開発意欲も約7割と高く全体を上回る。
- 男性でも仕事と子育ての両立が必要だと思うパパは8割を占めているものの、両立できると思うは半数以下の45.4%。
- 仕事と子育ての両立のために必要なのは「パパの意識改革」58.0%、「職場の理解」53.1%。
- 学校行事などの大きなイベントや子どもの看病などの突発的な理由は、職場の理解が比較的得やすいものの、子どもの送迎のための早退など日常的な育児については、職場の理解が得づらいと感じている。
- 職場で子どもや子育ての話をしているパパは72.6%と、多くのパパが職場でも父親の一面を見せている。
- 仕事よりも子どもを優先する項目は、第1位「運動会」、第2位「入園(学)式・卒業式」、第3位「発熱など子どもの病気」。

■ 子育てに積極的なパパは 8 割以上。子育て熱心なパパは、仕事への能力開発意欲も約7割と高く全体を上回る。

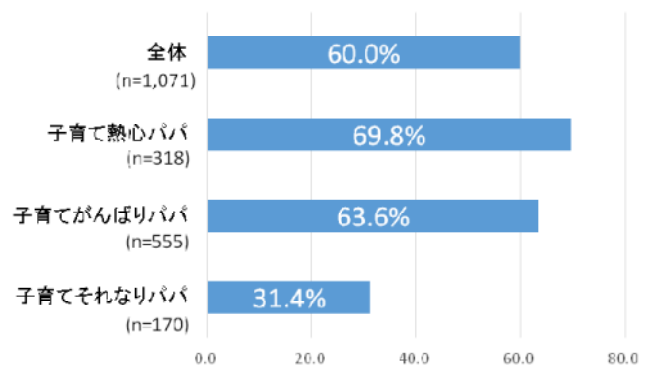
「父親も子育てに積極的に参加することが当たり前だと思うか」と聞いたところ、「非常に当てはまる」は 29.9%(子育て熱心パパ)、「やや当てはまる」が 51.6%(子育てがんばるパパ)、「どちらとも言えない」パパは 15.8%(子育てそれなりパパ)となり、積極派(「非常に当てはまる」及び「やや当てはまる」)のパパが全体の 80%以上になりました。

また、「仕事を通して自分の能力や可能性を高めたいか」と聞いたところ全体では、「非常に当てはまる」及び「やや当てはまる」と回答したパパが 60.0%でしたが、「子育て熱心パパ」の約 7 割(69.8%)、「子育てがんばるパパ」も 63.6%で、子育てに積極的なパパは仕事への能力開発にも積極的であることがわかりました。一方で、「子育てそれなりパパ」は 31.4%となっています。

Q: 父親も子育てに積極的に参加することが当たり前だと思う。(n=1,079)



Q: 仕事を通して自分の能力や可能性を高めたい。(n=1,071)



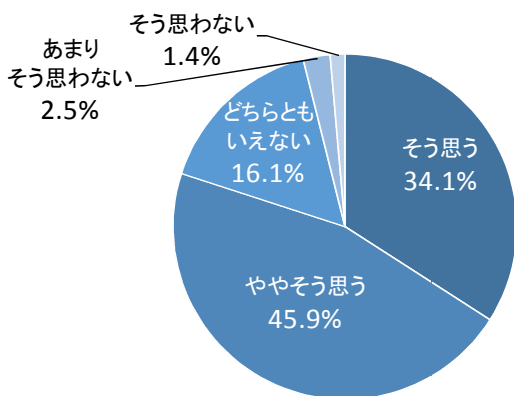
■ 男性でも仕事と子育ての両立が必要だと思うパパは 8 割を占めているものの、両立できると思うは半数以下の 45.4%。

「男性でも仕事と育児の両立は必要だと思うか」と聞いたところ、「そう思う」及び「ややそう思う」と回答したパパが全体で 80.0%となりました。

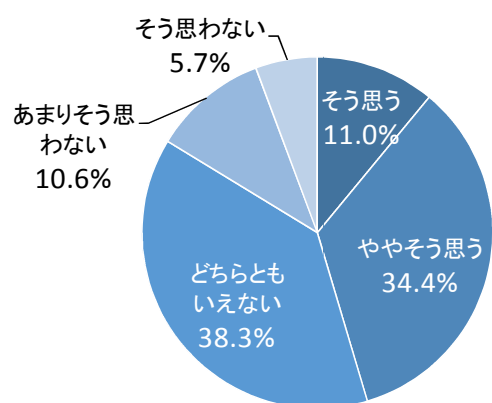
その一方で「誰でも努力次第で仕事と育児は両立できると思うか」と聞いたところ「そう思う」及び「ややそう思う」と回答したパパが全体で 45.4%、「どちらとも言えない」が 38.3%となっています。

男性でも仕事と子育ての両立が必要だと感じているパパが 80.0%を占めているものの、両立が図れると感じているパパは、45.4%に留まっていることが分かります。

Q: 男性でも仕事と育児の両立は必要だと思う。(n=1,079)



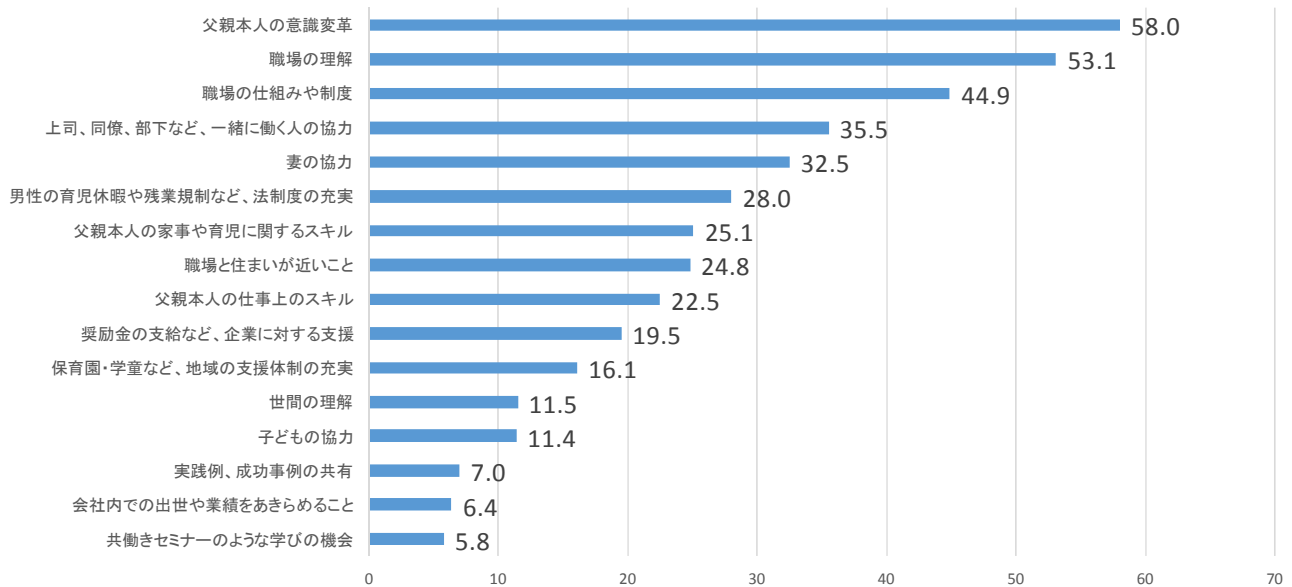
Q: 誰でも努力次第で仕事と育児は両立できると思う。(n=1,079)



■ **仕事と子育ての両立のために必要なのは「パパの意識改革」58.0%、「職場の理解」53.1%。**

「男性が仕事と育児を両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか」と聞いたところ、全体で「パパの意識改革」が 58.0%、「職場の理解」53.1%、「職場の仕組みや制度」44.9%となりました。パパ自身の意識改革と同時に職場の理解、協力体制が必要だと感じていることが分かります。

Q: 男性が仕事と育児を両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(n=1,079)

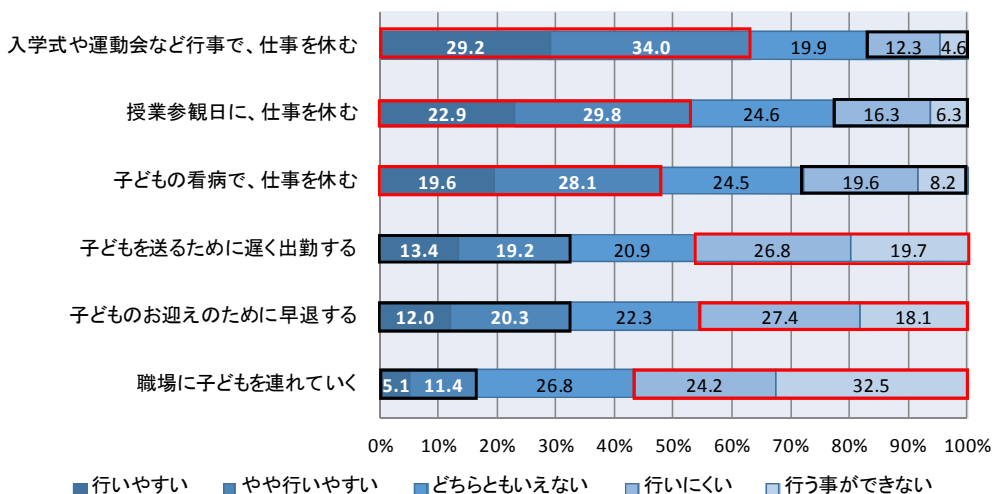


■ **学校行事などの大きなイベントや子どもの看病などの突発的な理由は、職場の理解が比較的得やすいものの、子どもの送迎のための早退など日常的な育児については、職場の理解が得づらいと感じている。**

子育てに対する職場の理解度について、「あなたの職場では、行いやすいもの、行いにくいものがありますか」と聞いたところ、全体で「行いやすい」及び「やや行いやすい」との回答の合計が、「行いにくい」及び「行う事ができない」との回答の合計よりも多かったものは、「入学式や運動会など行事で仕事を休む」63.2%、「授業参観日に仕事を休む」52.7%、「子供の看病で仕事を休む」47.7%となっています。また、「行いにくい」及び「行う事ができない」との回答の合計が多かったものは、「職場に子どもを連れていく」56.7%、「子どもを送るために遅く出勤する」46.5%、「子どものお迎えのために早退する」45.5%となっています。

学校行事などの大きなイベントや、子どもの看病などの突発的な事情については、職場の理解が比較的得やすいものの、子どもの送迎のための出退勤など日常的な育児に関することについては、職場の理解が得られず、行いにくいと感じているパパが多い現状が分かります。

Q: あなたの職場では、行いやすいもの、行いにくいものがありますか。(n=1,071)

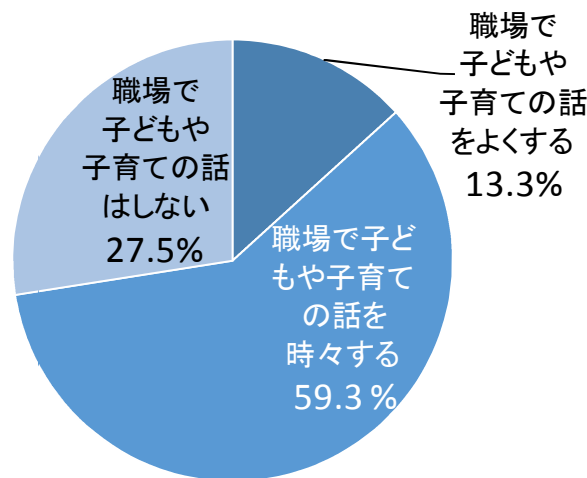


■ 職場で子どもや子育ての話をしているパパは 72.6%と、多くのパパが職場でも父親の一面を見せている。

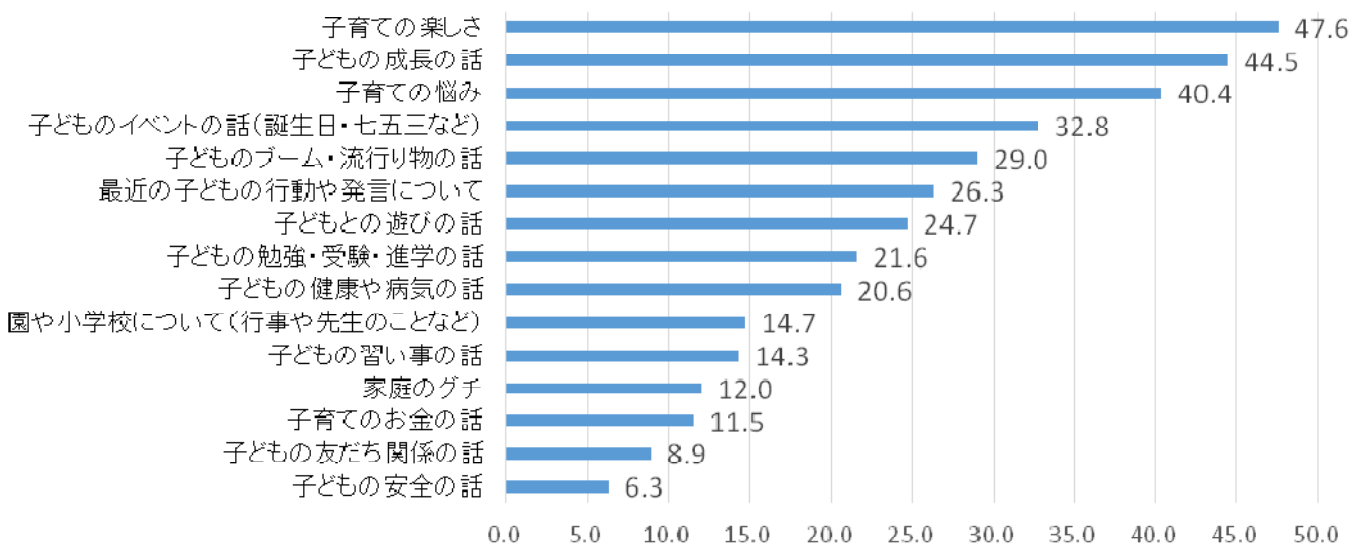
「あなたご自身の職場で、お子様や子育ての話をすることはありますか」と聞いたところ、「よくする」と回答したパパは全体で 13.3%、「時々する」は 59.3%となり、職場で子どもや子育ての話をしているパパは 72.6%となりました。そのうち、職場で子どもや子育ての話をする回答した人に「職場で話したことがある内容・話題」について聞いたところ、「子育ての楽しさ」が 47.6%、「子どもの成長の話」44.5%、「子育ての悩み」40.4%となりました。

また、職場での子どもや子育ての会話の効果について聞いたところ、全体で「その場を和ませることができる」49.9%、「子育てに関する情報を集めやすくなる」34.0%、「子育てパパ、子育てママとの交流を持つことができる」26.6%となりました。多くのパパが職場でもパパの一面を見せており、子育ての話を楽しんでいる姿や、子育ての話が職場の潤滑油となっている現状が分かりました。

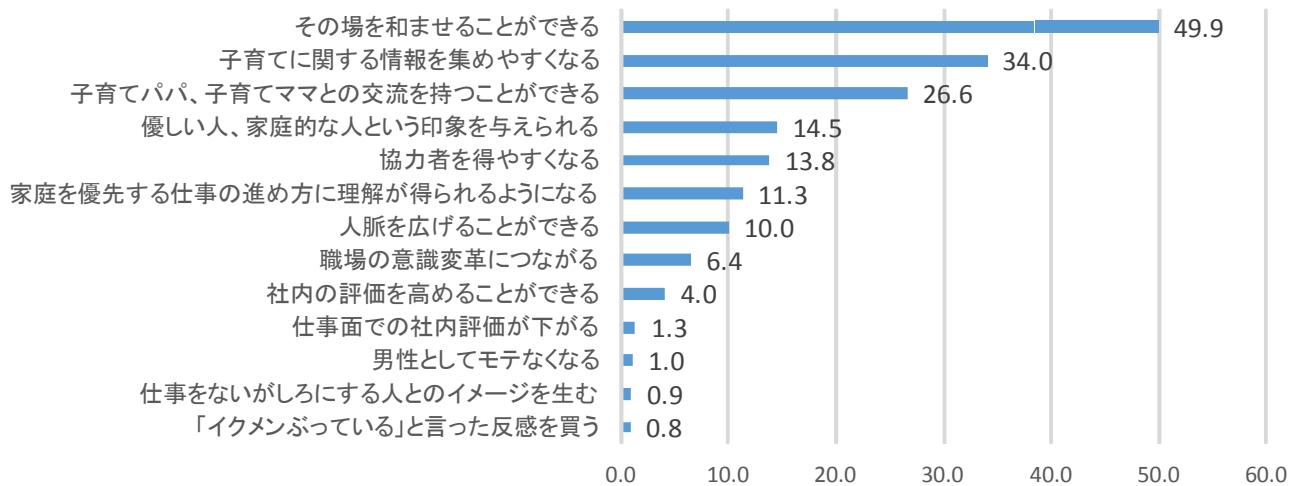
Q:あなたご自身の職場で、お子様や子育ての話をするがありますか。(n=1,071)



Q:職場で話したことがある内容・話題 (n=777)



Q:あなたが職場でお子様や子育ての話をする事で、どんな効果があると思いますか。(n=777)



■ 仕事よりも子ども優先、第1位「運動会」、第2位「入園(学)式・卒業式」、第3位「発熱など子どもの病気」。

仕事と子育てに関するパパの意識について「ご自身の仕事と子どものイベント、アクシデントなどが重なった時、どちらを優先しますか。」と聞いたところ、全体で「子どもを優先する」及び「どちらかと言えば子どもを優先する」との回答があったものは、「運動会(親子種目あり)」85.4%、「入園(学)式・卒業式」84.4%、「発熱など子どもの病気」76.1%となっています。

また、一方で、「どちらかと言えば仕事を優先する」及び「仕事を優先する」との回答が半数を超えたものは、「節分・ひなまつり・七夕など季節行事」54.9%、「保護者の集い、PTA 活動」75.6%や「ハロウィーン」77.8%となっています。

「運動会」や「入園(学)式・卒業式」の子どもが主役のイベントについては、子どもを優先するパパが多いものの、「保護者の集い、PTA 活動」など日常の学校の集まりについては、仕事を優先するパパが多いことがわかります。

Q:ご自身の仕事と子どものイベント、アクシデントなどが重なった時、どちらを優先しますか。(n=1,071)

